

平成 21 年度 武蔵野市立第五小学校 学校評価報告書

校長 亘理 純平

評価→A:十分に達成されている B:概ね達成されている C:達成がやや不十分である D:達成が不十分である

○は肯定的な内容、△は改善の余地のある内容、◆は提言

| 項目 | 重点目標 | 評価 | 取組状況・成果・課題 | 項目への改善策・対応策 | 項目に関する 学校関係者評価における意見 |
|---|---|----|---|---|--|
| 学習指導 | <p>【日々の授業】 市、国の学力に関する調査の分析をふまえた本校独自の授業改善推進プランを2学期始めまでに作成し、全員がその後2回の授業観察時の学習指導案を含め週ごとの指導計画に反映させる。</p> | A | <p>○学力調査の分析は1学期末までに終え、本校独自の「授業改善5つのポイント」を示した。</p> <p>○授業改善推進プランは、2学期始めの保護者会で説明をしたほか、ホームページでも公表した。</p> <p>○授業改善推進プランを日々の授業に生かすため、週ごとの指導計画に記載をしたほか、校内研究発表会でもその成果を公開できた。</p> | <p>・「授業改善のポイント」にそった授業を展開するため、次年度以降も取り組む。</p> <p>・ねらいや体制の周知により効果をあげているすいすい教室(学習支援教室)の発展学習を、夏季休業中に実施する。</p> | <p>○授業改善推進プランが他校のものとはずいぶん違うが、分かりやすい。</p> <p>○五小の授業改善推進プランは、学級や教科一人ひとりで書いている点もよい。</p> <p>○教室にある「声のものさし」はとてもよい。地域の施設などに掲示し大人にも活用したいくらいだ。</p> <p>○毎週の授業計画を綿密に考えるのは、先生方も大変なことだと思った。</p> <p>△授業参観をすると、どのように指導されているかがよく分かるが、宿題の量やノート指導などは分かりづらい。ほかの保護者に聞いたりするが、もっと学級や学年の情報を発信してくれると協力しやすい。</p> <p>△子供へどのような指導がされているか分からない。先生方がせっかく指導しているのに伝わらないのはもったいない。</p> |
| | <p>【校内研究】 校内研究の全員公開授業を通して、検証してきた授業改善のポイントを明確にさせた指導を公開する。</p> | A | <p>○本校の授業改善の取り組みが、市教育委員会のリーフレットに紹介され、他校への啓発になった。</p> <p>△個に応じた指導については、特別支援教育の視点からも推進の余地がある。</p> | | |
| <p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究発表や学校関係者評価でも評価された五小独自の「授業改善推進プラン」に基づいた日々の授業の充実は継続していく。 ・ 家庭学習を含め、ノート指導や学習の様子などは、学年便りや保護者会などを活用しながら、今後とも発信していく。 ・ すいすい教室を夏季休業中にも実施し、基礎的な問題だけでなく発展問題を扱うなど工夫をする。 | | | | | |

| 項目 | 重点目標 | 評価 | 取組状況・成果・課題 | 項目への改善策・対応策 | 項目に関する 学校関係者評価における意見 |
|---|--|----|--|--|--|
| 生活指導 | <p>【指導の重点化】 市の小中学校 10 の約束の重点事項と五中・関前南小3校の「あいさつ・姿勢・言葉づかい」について、家庭に協力を呼びかけるとともに年2回の保護者・教職員・地域アンケートと年3回の児童アンケートを行い、意識化を図る。</p> | A | <p>○「あいさつ」「廊下の歩行」については、子供たちの発案で標語をつくり、掲示するなど意識化が確認できた。</p> <p>○家庭や地域への2回のアンケート結果を通して、本校独自の「生活チェックカード」を作成したり、家庭の意識向上につなげたりすることができた。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度作成した「生活チェックカード」を、次年度は活用して連携を図っていく。 ・年度内に「ロッカーの使い方」「机の中のせいとん」などの掲示物を仕上げ、次年度活用する。 | <p>○正しい情報を迅速に出すということは、今後もお願いしたい。</p> <p>○保護者や地域が騒ぎすぎるから…と情報を制限するのではなく、今後も正確な情報を迅速に出してほしい。</p> <p>○セーフティだよりなど、伝聞でない情報提供があり、落ち着いて対応できたことがよかった。</p> <p>○メールによる情報配信もよかったという声が多い。</p> <p>△内部評価でCが多いのが「廊下の歩行」「正しい言葉づかい」「あいさつ」である。取り組みを工夫したらどうか。</p> <p>○先生が怒鳴らないで、粘り強く注意をしている姿をよく見る。学校だけではなく家庭・地域でも、根気強く指導していくことが必要である。</p> <p>◆常に右側通行のできる子を育てることが大切なわけではない。集団には、ルールがあることを理解することが社会生活にいきると思う。</p> <p>○よいことを進んで行う子がいると、真似をする子がでてきた。まさしく先輩がしていることが見本となっている。</p> <p>△内部評価でも、整頓についてはB評価であるが、あれだけの荷物を廊下に吊るすのは難しい。以前にはないものが増えてきているが、施設が対応できていない。</p> |
| | <p>【共通掲示物】 「五小の生活」の実際を視覚化した資料を2学期末までに作成し、公開する。</p> | B | <p>○「くつの上のしまい方」「フックのかけ方」など共通の掲示物を作成することで、指導の重点化・統一化が図られた。</p> <p>△「ロッカーの使い方」「机の中のせいとん」については、作成中である。</p> | | |
| <p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度作成した「生活チェックカード」を、次年度からの2年間活用し、家庭とともに粘り強く指導していく。 ・あいさつ週間の設定など児童会の自発的取り組みを促し、高学年を「先輩」として育てていく。 ・メールによる安全情報配信は、4月から本格実施とする。 | | | | | |

| 項目 | 重点目標 | 評価 | 取組状況・成果・課題 | 項目への改善策・対応策 | 項目に関する 学校関係者評価における意見 |
|---|---|----|---|--|---|
| 教育環境の充実 | 【学校図書館】 学校図書館の整備と「五小おすすめの50冊」の取り組みや朝読書・読み聞かせを通して読書意識を高め、一人あたりの平均貸出冊数を昨年度の28冊から15%増の32冊にする。 | B | ○一人あたりの貸出冊数は45.1冊（2/24現在）である。 ○100名以上の保護者のボランティア活動により、図書館の飾りつけや草取り、落ち葉はきなど教育環境が整備された。 ○校内の自然環境に関する広報は、8回以上実施した。 △授業内容・授業時数の関係もあり、水田や屋上での栽培活動を、地域の方などの支援なしでは進められない面もある。 | ・「言語活動」を充実させるために、言葉の体力づくりとして読書活動の充実を校内研究で取り上げる。 ・学校ボランティアの体制は継続したい。 | ○図書館が明るく、とてもよい雰囲気になった。入りやすい雰囲気になった。 ○おすすめの冊子が見やすいように工夫した並べ方だった。 ○以前より、朝、本を持参している子が増えた。 ○学校図書館がB評価だが、前年比60%増ならAとしてもよい。 ○落ち葉はきが、協力しやすい方法だったから、参加できた。 |
| | 【自然環境】 ビオトープの維持管理や水田・屋上での栽培活動を通して自然環境を身近に感じさせるとともに、その活動について広報を年3回以上行う。 | B | | | |
| 《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 ・読み聞かせなどの充実や各教科等の関連を図った読書活動を、図書室サポーターを活用しながら推進していくことを校内研究の柱とする。 ・環境教育の各教科等における位置づけを確認し、家庭にも働きかけ、理解・啓発をしていく。 ・学校ボランティアは、保護者の協力を得ながら拡充を図る。 | | | | | |
| そのほか | 【体力向上】 体力調査の結果を分析し、体力向上の具体策・重点を体育科の授業と年5回の体育朝会を利用し、外遊びの奨励と関連付けて取り組む。 | C | ○体育朝会の年間計画作成により、指導内容が徹底された。 ○外遊びの奨励については、「五小のやくそく」に文言を入れ、指導を行った。 ○ホームページをリニューアルし、更新回数は60回（2/24現在）を超えた。 ○パソコンを含めた情報機器の活用が進んだ。 △本校独自の体力向上策は、インフルエンザ対応により実施できなかった。 | ・体育朝会と連動させた「外遊び週間」を設定するなどさらなる取り組みの工夫をする。 ・教員1台のPC導入に向け、さらに研修を図り、円滑な校務の遂行と個人情報の万全な管理を図る。 | ○外遊びを奨励していることが分かったので、よかった。 △集団遊びの種類を知らずに、特定の遊びだけをしている感じがする。 ○教育目標が大変分かりやすくなり、五小の方向性を発信できている。 △学校関係者評価をするための資料を含め、全体がまだまだ分かりづらい。報告書の様式も、五小オリジナルで市教委に提案したらよいと思う。 △1年間取り組んできた先生方の本音の気持ちを知りたい。 ◆今後も「青少協」や「あそべえ」等と連携し、多様な価値観をもつ地域の人とのかわりの中で子供を育てたい。 |
| | 【情報機器の活用】 ホームページのリニューアルを進め、月に2回の更新をするとともに、ICTを積極的に活用した授業を推進する。 | A | | | |
| 《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 ・体育朝会と連動させた「外遊び週間」を設定していくほか、多様な体の動きを指導していくなど工夫をする。 ・ICTを積極的に活用した授業をさらに推進し、子供の学習意欲を高める工夫をする。 | | | | | |